

おわりに

本研究「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究」では、「遺跡の重要性の理解」、「将来的に遺跡に影響を及ぼす要素」に関する調査を経て、最終的にメンフィス・ネクロポリスの遺跡整備計画を提示することを目標とした。

「遺跡の重要性の理解」では、まずメンフィス・ネクロポリスにおける遺跡個別の情報や調査史をまとめ、保存整備の計画を策定していく上での遺跡の性格や重要なポイントを確認していく作業を行った。メンフィス・ネクロポリスに属し、研究代表者が継続的に調査を行っているアブ・シール南丘陵遺跡、ダハシュール北遺跡での調査を継続し、具体的な資料からメンフィス・ネクロポリスの重要性について掘り下げていくという作業を行った。アブ・シール南丘陵遺跡におけるラメセス2世の孫イシスネフェルト墓の調査や、ダハシュール北遺跡におけるシャフト墓の調査成果など、特に新王国時代エジプトにおけるメンフィスの位置づけを問い直す成果が得られ、保存整備計画の方針策定に重要な材料を得ることができた。

「将来的に遺跡に及ぼす要素」については、現地踏査を通して遺跡の現状を記録する作業をまず実施した。具体的には、遺跡整備の進行状況や遺跡の劣化状況、近隣住民によるゴミや地形改変、現代墓地の発展、盗掘の状況である。これらの情報は、「重要性の理解」で収集された遺跡の情報に加え、リモートセンシングによる衛星画像データも含めGIS（地理情報システム）のデータベースに統合することで、遺跡の現状を広域的な視野によって可視化し、研究参加者の間で共有した。こうした仕組みを用いて、考古学、建築史学、保存科学、観光学の専門家からの意見を集約し、学際的な視点から「将来的に遺跡に及ぼす要素」について吟味した。特に、広域的な視点から確認したことで、遺跡のゾーニングに関する不備が、遺跡破壊に大きく影響していることが判明した。また、研究期間中の2011年1月にエジプト政変があり、その後の治安悪化によってメンフィス・ネクロポリスにおいても盗掘が横行するという状況があった。衛星画像の時系列の比較から、被害が起こっているスポット、進行状況を評価することができ、遺跡の保安整備における弱点を見つけることができた。この分析結果は、保存整備計画における重要な項目として、成果に盛り込まれている。また、アブ・シール南丘陵遺跡、ダハシュール北遺跡においては、保存科学や地質学から、個別の遺構や遺物の保存修復におけるケース・スタディーを実施しており、これらの成果はメンフィス・ネクロポリス全体に敷衍できるものである。

最後に、上記2つの研究成果を踏まえ、メンフィス・ネクロポリスにおける具体的な保存整備計画の提示を行った。当該地域に含まれる各遺跡にはそれぞれ特徴があるため、アブ・ロアシュ、ギザ、アブ・シール、サッカラ、ダハシュールおよびマズグーナの主要な地域に分割し、それぞれの性格を活かした保存整備計画の概要を提示した。そして、アブ・シール南丘陵遺跡、ダハシュール北遺跡においては、前者は地上の遺構中心の遺跡の例、後者は地下の遺構中心の遺跡の例として、より具体的な保存整備計画の提示を行った。この2遺跡における保存整備計画には、考古学だけでなく、建築史学や保存科学、地質学、観光学、分析化学、人工衛星画像解析等の学際的成果がベースにあり、メンフィス・ネクロポリスの各遺跡の具体的な整備方針に資するモデル・ケースとなるものである。本研究の成果は、エジプト政府考古省に提言として提出し、将来のメンフィス・ネクロポリスの遺跡整備に寄与したいと考えている。

謝辞

本研究報告は、日本学術振興会科学研究費基盤研究補助金（基盤研究（S））「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究（課題番号：19100010、研究代表者：吉村作治）」の研究成果の一部である。

エジプト現地では、特にエジプト・アラブ共和国考古省前国務大臣ムハンマド・イブラヒーム・アリ閣下、同省古代エジプト部部長ムハンマド・ベアリー博士、外国調査隊管轄事務局長ムハンマド・イスマイル・カーレド博士、サッカラ査察局長カマル・ワヒード氏、サッカラ査察局次長オサマ・アル＝シーミ氏、主任査察官サブリ・ファラグ氏、サッカラ、セリーム・ハッサン収蔵庫博物館館長ラガブ・イスマイル・シャハータ・トルキ氏、主任査察官ムハンマド・ユーセフ氏をはじめとする多くの方々にご協力頂いた。また現地において調査隊の支援、コーディネートの尽力くださった早稲田大学エジプト学研究所カイロ・オフィスのマネージャー、吉村龍人氏、同オフィスのコーディネーター、ムハンマド・アシュリー氏に多大なる協力を頂いた。

本書の作成にあたって、早稲田大学大学院文学研究科考古学コース博士課程の熊崎真司、山田綾乃に編集作業の協力を得た。また、早稲田大学大学院文学研究科考古学コース修士課程の山崎美奈子に参考文献作成の協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

（吉村 作治）